

揖斐郡学校保健会だより 第3号 R6.10.21 R6 第63回岐阜県学校保健研究大会（中津川大会）報告

令和6年10月20日（日） 東美濃ふれあいセンター 歌舞伎ホール

令和6年度第63回岐阜県学校保健研究大会 大会テーマ
よりよいひとりだちを目指した保健指導の在り方
～コロナ禍を乗り越え、認識力、判断力を身に付ける保健教育の推進

1 令和6年度第63回岐阜県学校保健研究大会の挨拶・講話より

- (1) 岐阜学校保健会会長 伊在井 みどり 様 挨拶より
- 複数の感染症が起きている中での健康教育は重要である。
 - 心身の健康に関わる情報が氾濫しているので正しい選択と対応を教える必要がある。
 - 自ら望ましい判断力をもてるような連携が必要である。
 - 学校の実態やニーズに応じた教育が必要である。
- (2) 岐阜県教育委員会 中川教育次長様 挨拶より
- 未来の担い手となる子どもたちの心身の健康を培う健康教育の推進が大切である。
 - 健康に関する課題の複雑化、体力の低下を踏まえて指導にあたる必要がある。
- (3) 中津川市学校保健会会長 服部様 挨拶より
- 少子化・不登校の問題を踏まえて健康教育に取り組む必要がある。
 - 困難な時代を生き抜き、未来を切り拓く力を学校保健の取組を通して培っていききたい。
- (4) 中津川市長 小栗様 挨拶より
- 学びを生かして健康教育の推進を図っていく必要がある。
 - 中津川市では「康なかつがわ21」の取組を通し健康で明るく生活できる町づくりを進めている

(令和6年度 岐阜県学校保健会表彰・岐阜県学校環境衛生活動表彰)
(中津川市立神坂小学校5・6年による三味線演奏)

2 令和6年度第63回岐阜県学校保健研究大会の研究発表より

(1) 研究発表Ⅰ 中津川市医師会部会

中津川市命の教育「なぜガンはできるの？」 ～共に考えようがんに対する理解と予防、そして命の大切さ～

- 「中津川市命の教育」の一環として、生徒ががん発生の機序を科学的・医学的に理解できるようにした。
- 若年のうちから、ガンに対する正しい理解を獲得し、ガン予防につながる生活習慣を身に付け、命の尊さを実感できるようにしたい。
- 分子生物学の点からみると4塩基からなる二重らせん構造をもつDNAの複製のミスが蓄積することにより、細胞の異常増殖・ガン抑制メカニズムの機能停止によりガンは発生する。
- ガンは怖いものでなく予防できるものであるとの理解を進める必要がある。
- ガンに対する理解の変容を確認することができるような事前アンケート・事後アンケートの活用を工夫した。
- 喫煙や飲酒などの生活習慣が、DNAの異常を引き起こし、ガン発症のリスクを高めることにつながることを理解できるように教材を工夫した。
- 生徒が自らの食生活や生活習慣を振り返ることができるようなまとめの工夫を行った。

(2) 研究発表Ⅱ 中津川市学校栄養士部会

「豊かな心と健やかな体を育む実践力」を育成する食育の推進 ～学校給食を生かしてつながる食に関する指導～

- 学校給食の献立や食に関する指導を通して、正しい理解や望ましい食習慣を身に付けることにより「よりよいひとりだち」ができることを目指した。
- 研究内容として①野菜摂取啓発の取組と②減塩・適塩啓発の取組を行った。
- 野菜摂取の取組では野菜摂取啓発の取組として「具たくさん汁物を取り入れた献立の計画」を、食に関する指導の工夫として、「コロナ禍でのICT危機を活用した指導計画の作成」、「給食時の校内放送の活用」、「市内教科部会とのつながりや食育だよりの作成」を行った。
- 家庭へのアプローチとして夏季休業中に家庭で調理する課題を小学校5年生以上で行った。

- 減塩・適塩啓発の取組として「だしや食材のうま味を生かした献立の計画」、「学級担任や教科担任と連携した指導」、「市健康医療課との学校給食レシピ集（減塩編）の作成」、「学校・家庭・地域が連携した減塩プロジェクト」を行った。

（３） 研究発表Ⅲ 中津川市養護教諭部会

健康課題の解決に主体的に取り組む子の育成 ～生活習慣病予防・視力低下に対するアプローチ～

- 中津川市の健康について調べた結果、肥満の増加と視力の低下に課題が見られた。
- 養護教諭部会としてつながり・保健教育・家庭地域のアプローチを大切にしながら、「生活習慣病の予防の取組」、「視力低下防止の取組」を研究内容として取り上げた。
- 生活習慣病予防の取組として、「各種医療保健関係者とのつながり」、「親子食事指導と基準値外者に対する養教の個別指導」、「小学校でのおやつ指導、中学校での朝食指導を行うための食習慣指導用教材の作成」を行った。
- 児童生徒委員会の活動として、小学校では適正なおやつや飲み物の取り方の啓発を、中学校ではクロームブックを使つてのアンケートや朝食摂取状況、外遊びの推奨や掲示発表を行った。
- 家庭地域へのアプローチとして保健だよりの発行・個別指導による啓発・保育園食育指導参観を行った。
- 視力低下予防の取組として、学校眼科医・視能訓練士・学校薬剤師と連携した指導を行った。
- 継続的な視力低下防止に対する認識力・判断力を身に付けるために、給食時の放送やミニ保健指導の実施、目の健康を守るための約束やルールの確認、視力低下予防に効果的な外遊びの推奨を行った。
- 視力低下予防の取組は未就学児から行うことが大切であると考え、市立保育園、幼稚園、子ども園の園長会とのつながり、小学校低学年の視力低下の現状報告を行った。

（４） 部会 紙上提案

①中津川市歯科医師部会テーマ

歯科保健教育を通して認識力・判断力を身につけ、よりよい自立を目指す ～組織的・継続的につながる歯科指導～

②中津川市薬剤師部会テーマ

学校環境衛生のあり方 ～健康かつ安全な環境衛生のための検査と指導～

3 令和6年度第63回岐阜県学校保健研究大会 記念講演より

記念講演 「共に築く、子どもたちの未来～小児感染症医の視点から～」 講師：岐阜大学大学院医学系研究科 手塚 宜行 先生

- 「多職種で支えるこどもの未来」、「予防接種から支えるこどもの未来」の視点から常に「こどものために」という視点を大切にしながら取り組んでいる。
- 健康とは単に病気や虚弱がないことを意味するものではなく、「身体的・精神的・社会的に良好な状態」を指す。
- 健康に影響を与える要因として「身体的」、「精神的」、「社会的」な側面があるが、日本は身体的では世界で1位だが、精神的幸福度は37位、学力・社会的スキルでは27位である。
- 子どもの生活を支える構造は
生命の安全の保障と苦痛緩和と除去・・・医師・看護師・リハビリ等
体調の安定・体力の向上などの健康維持・・・学校
社会生活（遊び・外出・学び・仕事）・・・学校
が担っており、学校の役割は大きい。
- 相対的貧困が子どもに与える影響として、学習意欲低下・健康状態悪化・家族関係悪化・自己肯定感の低下・生活環境悪化・虐待率の上昇があげられる。
- 相対的貧困が子どもに与える影響として特に健康面では、予防接種が受けられない・病気でも早期受信できない・虫歯、肥満、低身長、骨粗鬆症の増加・喘息、アレルギー疾患、アトピー性皮膚炎の増加・健康に関する相談相手の不在があげられ、経済的・社会的関係構築の支援が必要である。
- いろいろな職種の協力がこどもの未来を創る・・・こどもまんなか こども家庭庁
- 感染症が寿命に大きくかかわっており、予防接種の役割が大きい。任意接種だから摂取しないでよいわけではなく、未接種のデメリットを踏まえておく必要がある
- ワクチン未接種の要因としてリスク認識の低さ、他の健康問題より優先順位が低いこと、ワクチンの効果・安全性・医療に対する信頼の問題、ワクチンの入手可能性・コスト、予防接種の魅力について考える必要がある・・・予防接種にためらいを感じる人たちに、予防接種への前向きな気持ちになるよう、行動変容を促したい。
- こどもに関わる人の説明や関わり方はとても重要であり、聞き手の考えを変えることができる。